

祝総合2位!



第99回箱根駅伝を終えて応援団と記念撮影

2023年 ご卒業 まことにおめでとうございます

新型コロナウイルスの流行により、社会活動も制約されている環境の下で、今年、卒業される皆さんは、社会人として、あるいは大学院等に進まれる方もいるでしょう。どちらに進んでも中央大学の卒業生として学員（同窓）となるわけです。中央大学学員会は、約58万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、学員相互の親睦を図り、母校中央大学の発展とその使命達成に寄与することにあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、中央大学では、2015年に中長期事業計画「Chuo Vision 2025」（2016年度から10か年計画）が策定され、2023年度は8年目を迎えますが、随所にその施策実行が求められています。今年4月には、多摩キャンパスから法学部が新設の茗荷谷キャンパスに約5,500名の学生と教職員が移

転してきます。また同時に、シンボルタワーとしての20階建の駿河台キャンパスには、法科大学院、ビジネス・スクールなどが移転します。我われ学員会本部も駿河台キャンパスの18階に入居します。このように各施策が展開されつつありますが、大学入学志願者の減少など大学間競争も激化する中で、大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要となります。昨年の中央大学のスポーツは目覚ましい成果をあげています。今年は新年早々箱根駅伝で準優勝するなど、スポーツを通じて人間力の向上にも結び付けることが期待されます。学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人としてより充実した人生を謳歌することを期待していると思います。令和の新しい時代の若者として頑張ってください。

中央大学学員会
会長

久野 修慈



さい。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的に交流する年次支部協議会が幅広く活動しています。また、全国の都道府県に地域の支部、職業区分等による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会することができます。今後は、学員会と関わりを持ち活用してください。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終生交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、明るく健康で気概のある若者となって国内外の企業や地域社会、学校などでお役に立てるよう前進してください。我われは、皆さんが各支部に入会されることを心待ちにしています。どの支部も若い学員を大歓迎しています。

特集・箱根駅伝

質問事項

- ①今年の箱根駅伝について「自分の役割も含め」どのように総括していますか？
- ②4年間で納得出来る(印象的な)走りが出来た競技大会・区間・記録などあれば。
- ③この4年間で心に最も残る「思い出」あるいは「得たもの」は？ 学生生活も含めて。
- ④卒業するにあたって母校、またはチーム・友人・後輩への思いをひと言
- ⑤今後の進路を踏まえた目標や夢は？



小木 曾 竜 盛

理工学部

- ①当日はチームのサポートとして箱根駅伝に臨みました。直近4年間で最も選手、監督スタッフ、マネージャーが団結し、自信をもって大会を迎えることができ、目標である3位以上を達成できたと感じています。
- ②2022年12月31日、早稲田大競技会(漢祭り) 29' 47" 23
理由：引退レースでチームメイト、スタッフ陣が声を枯らすほど応援してくれたため。
- ③心に残る思い出というよりも脳裏に焼き付いている光景は、何度も練習中に立ち止まろうと思わされた蔵王合宿のクロカンコースです。
- ④来年の箱根駅伝で総合優勝して「うちの後輩は凄いなぞ!!」と自慢させてください(笑)。
- ⑤12年間続けていた陸上競技から一旦離れますが、10年経った時に体重が100kgを超えていないこと、マラソンに出てサブ4を達成することが目標です。



助 川 拓 海

経済学部

- ①10区は襷をもらった順位を確定させる区間なので最低限維持、追えば順位を上げることが自分の役割

であると思っていた。

- ②4年目の上尾ハーフマラソン62' 36" 箱根駅伝のメンバー選考であった。しっかりアピールできた。
- ③2年目の第2寮行。自分を律するきっかけとなった。
- ④僕自身が大きく成長するきっかけをくれました。本当にお世話になりました。来年は優勝を期待しています！
- ⑤実業団ではマラソンに挑戦し、自分の限界まで陸上競技にチャレンジしていきたいと思っています。



田 井 野 悠 介

文学部

- ①今年箱根駅伝総合3位を最大の目標に練習に取り組んできました。往路は後輩たちが中心となって優勝争いをしてくれたおかげで、来年以降の大会に向けて手ごたえを掴んでくれたのではないのでしょうか。復路は5人中4人が経験豊富な4年生で、安定感のある走りを見せてくれました。結果的に総合2位と目標を上回る順位で終わることができたのは満足しています。しかし個人的にはエントリーされた4年生で唯一走ることができなかったことが心残りです。
- ②昨年の上尾ハーフです。4年生になってからは怪我と体調不良に苦しみ自己記録を更新することができていませんでした。この大会で自己記録を更新し、箱根駅伝のメンバー入

りを果たすことができました。苦しんだ時間が長かった分、報われたときの喜びは大きかったです。

- ③同期達と過ごした時間が最も印象的でした。なかなか結果を出せない世代ではありましたが、最後に箱根で4年生が多く出走し襷を繋ぐことができたことは良い思い出になりました。
- ④今年の箱根駅伝の結果でチームは自信をつけたと思います。さらに上の結果を残すには厳しい練習が必要になると思いますがチームを信じて悔いのないように過ごしてください。いちOBとして活躍を祈っています。
- ⑤競技は大学生生活で引退となります。物流関係の仕事に就く予定ですので、これまで私を応援してくださった皆さんに少しでも恩返しができるようになりたいです。



千 守 倫 央

商学部

- ①今年の箱根駅伝は総合2位という結果でしたが、目標としていた3位以内を達成することができてとても嬉しかったです。もちろん優勝が見えていただけに優勝したかったという悔しい気持ちもありますが、この悔しい気持ちは来年後輩たちが総合優勝をして晴らしてくれると思うので後輩たちに託したいと思います。個人としては、今年は7区を走り区間4位という結果でした。目標としていた区間賞には届きませんでした。全力を尽くした結果なので区間順位に関しての悔いはありませんが、自分の役割を考えたときにもう少し前との差を詰めなければならなかったなのでそこは少し悔しいです。ですが、最後の箱根駅伝を楽しく走ることができたので良かったのかなと思

駅伝チーム 卒業生アンケート

います。

②この4年間でもっとも印象的なレースはやっぱり4年目の箱根駅伝の7区だと思います。中央大学で4年間やってきたことの集大成の大会であり、レースだったので一番印象的です。

③この中央大学陸上競技部で先輩や後輩、なによりかけがえのない同期と過ごした4年間のすべてが一生の思い出であり、得たものだと思っています。

④中央大学で4年間やってきてよかったと思えるように、そして最後は笑って卒業できるように悔いのない時間を過ごしてほしいと思います。応援しています。

⑤私は社会人になっても実業団で競技を続けるので、日本を代表するような選手になれるように頑張りたいと思います。



中澤 雄大
経済学部

①今回の箱根駅伝では6区7区8区の4年生3人で勝負を決めると言うように言っていたため、後続との差が大きく開いていたこともあり、前だけを追っていく攻めの走りをしようと考えていました。結果としては千守が詰めてくれた先頭との差を1分以上にまで広げる走りとなってしまい、個人的な走りの内容としては悔いが残る結果となりました。

②3年次の箱根駅伝は自分としても合格点をあげられるレースだったとは考えています。その中でも後半の失速であったり、レースの組み立て方における反省点はありましたが、持てる力を出し切って走ることができたレースでした。

③この4年間で私は同期という生涯の友を得ました。同じ寮で暮らし、共に練習を乗り越えてきた同期という存在は、これからの人生の中で私の大きな拠り所になると思います。

④これから中央大学陸上部は更に強くなっていくはずですが、新たな黄金時代の到来をこれからはいちOBとして心待ちにしたいと思います。

⑤中学からの10年間陸上一筋でやってきた手前、まだ自分がこれから先どうなりたいたいのかが酷く漠然としている状態ではありますが、一方で自分の未知の可能性にとってもわくわくしています。これから何を目指すにしても、この4年間で培ったものを活かして本気で取り組んでいきたいと思っています。



藤村 燦太
商学部

①今年の箱根駅伝はチームのみんながお互いを信頼しあって自分の役割を全力で果たした結果だと思っています。

②1年生のときに出た中大記録会の10000mで、初めて30分を切ったことです。

③全日本駅伝で10年ぶりにシード権を獲得したことです。その時8区を出走していた手島さんがとても仲のいい先輩で、ゴールした瞬間が本当に嬉しくて、サポートする側の喜びを初めて実感しました。

④最後に笑って終わることが出来ればそれ以上のことはないと思うので、後悔が残らないよう全力で頑張ってください。

⑤今まで支えてきてくれた人に恩返しができるように生きていきたいです。



若林 陽大
法学部

①役割としては先頭に追いつくことでした。しかし、それを達成できなくて悔しい思いもありますが、チームとして総合2位になれたことが嬉しかったです。

②100回関東インカレ10000m 28'54"01

③走ることを楽しむということ。

④これから黄金時代を作っていってほしいです。

⑤これからも競技を続けるので、偉大な先輩たちに追いつけるように日々精進していきたいです。

若林主将への質問

Q 今年のチームはどんなチームでしたか？

A 駅伝に対して熱いチーム。

Q Cマークはプレッシャーでしたか？

A プレッシャーも少しありましたが、憧れのCマークをつけられて幸せな4年間でした。

Q 主将として一番心がけたことは何ですか？

A 自然体でいること。

Q 主将になって良かったと思うことは？

A 経験値。

このような伝統校の主将は多くの人が体験できない。貴重な経験をさせてもらったから。

Q 新主将に託す思いを教えてください。

A 来年度からはより注目される学校になると思うが、気負わず湯浅らしく主将をやり抜いてほしいです。

特集・箱根駅伝

往路



1区 スタートで先頭に立つ溜池選手(1年)

2区

花の2区で区間賞のエース吉居選手(3年)



3区

ダブルエースの中野選手(3年)も区間賞



写真提供：「中大スポーツ」編集部
©中大スポーツ新聞部

1区(溜池選手)⇒2区(吉居大和選手)



2区(吉居選手)⇒3区(中野翔太選手)



3区(中野選手)⇒4区(吉居駿恭選手)



4区(吉居選手)⇒5区(阿部選手)



箱根の急坂で給水を受ける阿部選手(2年)

復路



大平台を疾走する若林主将(4年)

6区(若林選手)⇒7区(千守選手)



7区(千守選手)⇒8区(中澤選手)



8区(中澤選手)⇒9区(湯浅選手)



9区(湯浅選手)⇒10区(助川選手)





7区



区間4位と健闘した千守選手(4年)
©中大スポーツ新聞部

8区



駒大を追いつめた中澤選手(4年)

9区



来年につながる走りを見せた湯浅選手(3年)



10区 準優勝のテープを切った助川選手(4年)

“One Chuo”で オンラインスポーツ応援!

卒業後も白門アスリートの活躍にご注目ください!

中央大学スポーツ振興・強化推進事務室
事務室長 八木隆史

4年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

中央大学は「中長期事業計画 ChuoVision2025」において、スポーツ振興の柱として、箱根駅伝の優勝を目指して、本学駅伝チームを支援しております。

駅伝チームを応援するため、本学はオンライン応援イベントを実施しております。ひたむきに競技に打ち込む学生を中大関係者(学生・院生・父母・学员・附属学校生徒と父母・教職員・中大ファン等)が“One Chuo”となって応援するイベントです。駅伝に詳しい解説者が駅伝チームOB選手などのゲストと共に“中大駅伝”を熱く語り、沿道からの応援レポートやオンラインでの応援メッセージを“声の樺りレー”として繋ぎます。



出雲駅伝パブリックビューイング会場の多摩キャンパスCスクエア。声援の代わりにスティックバルーンと中大タオルで応援。

1000名を超える皆様と共に、出雲路・伊勢路・箱根路を激走する選手にオンライン応援を行いました。

本学駅伝チームは、次の3大駅伝に向け、チャレンジャーとして果敢に準備を進め、第100回箱根駅伝での総合優勝を目指します。本学駅伝チームの活躍にご注目いただき、今後とも本学陸上競技部への熱い応援をよろしく願いいたします。

卒業生の皆様は、今後は学会会の会員として、年次支部(卒業年)、地域支部(居住地)、職域支部(職場)などの活動に参加し、同期や先輩後輩との交流をすることができます。是非、学会会支部の活動にご参加いただき、駅伝に限らず、各種競技における白門アスリートの活躍を応援していただければ幸いです。卒業後も本学のスポーツ応援イベントには是非ともご参加いただきますようお願いいたします。

社会の海原に漕ぎ出して行かれる皆様のご多幸とご活躍を祈念いたしております。

“One Chuo” 想いは、ひとつ。



箱根駅伝総合2位で笑顔! コメンテーター 櫻井俊宏氏(応援団助監督・弁護士2007年法務終了)と関口康平氏(2018年度駅伝主将2019年理工卒業)

9年ぶりの出場となった出雲駅伝、シード校に復活した全日本大学駅伝と箱根駅伝では、鳥根・愛知・三重・東京・神奈川の各都県の学会会支部や父母連絡会支部のご協力を得て、

女性白門会

女子学生を応援

中央大学名誉教授・学会会副会長
植野妙実子

2020年1月にWHOが新型コロナウイルスについての緊急事態宣言をしてから、早くも3年が経ちました。各支部におかれても活動に苦慮していることと思います。

私は女性白門会の長い間会長(支部長)を務め、つい最近後輩にその役を譲って顧問となりました。女性白門会は、中央大学の各学部の女性の卒業生で構成される学会会支部です。

女性白門会は、女性学員相互の親睦と福祉向上を図り、中央大学の建学の精神と伝統を継承し、母校の発展に寄与することを目的として、1968年に創設されました。当初は女性婦人会という名称でしたが、その後女性白門会に名称を変更しています。すでに活動は50年を超え、50周年記念誌として『はばたく女性』を作成しました。

活動内容は主に、総会・懇親会の他に、女性ならではの問題を取り上げた講演会の開催や女子学生のキャリア支援としてウイングの会を毎年行っています。前者としては、これまでセク・ハラやパワ・ハラ、ストーリー、児童虐待を講演内容として取り上げ、できる限り学員でその道の専門家である方にお話をうかがうこ



千葉景子元法務大臣を囲んで



女性白門ウイングの会風景

とをしています。会員である教員が、ゼミの学生を連れてきて一緒に聞くなどのこともしています。後者としては、キャリアセンターと共催で、一部としては女性学員で第一線で働いている方に講演していただき、二部としては内定の決まった女子学生に「私はこうして内定を勝ち取った」という内容のシンポジウムをしてもらっています。

2022年11月26日には、多摩のFOREST GETEWAY CHUOで、第28回ウイングの会「女子学生応援セミナー」をオンライン・対面のハイブリッドで開催し、40名ほどの女子学生が参加しました。一部には、読売新聞東京本社政治部与党担当「平河クラブ」のサブキャップをしている森藤千恵さんにお話をうかがい、二部では三井住友銀行、デンソー、国家公務員一般職に内定を得た4年生からこれから活動を行う女子学生たちにエールを送ってもらいました。またいつもは、新年会は歌舞伎鑑賞会とセットで行っていましたが、今年は趣向を変えて、東京湾クルーズで夜景を楽しみました。これも学員である船会社の社長さんとの関係で実現したものです。3月にはオンライン料理教室をします。

このように学員のネットワークを活かしながら、女性ならではの取り組みの実現に励んでいるところです。男性の友達参加も歓迎です。皆様のご参加をお待ちしています。

流山白門会

小川ヤクルトGM セリーグ2連覇 祝勝会

流山白門会支部長
高橋 洋

平成25年に小川ヤクルト監督を励ます会を発会し、昨年12月で10年となりました。

当初から小川ヤクルト監督を中心に高橋善正元中大硬式野球部監督、ノンフィクション作家門田隆将氏の三氏を囲んで、流山白門会を中心に各地域支部、年次支部の有志、中村中大女子陸上部監督、曾根純恵キャスター等も参加し50名位の規模で12月上旬に流山の老舗割烹「柳屋」で交流を図っています。一昨年は、ヤクルト日本一を達成し昨年はセリーグ2連覇と祝勝会として運営し、毎回盛況です。小川GMには特にヤクルト主砲村上選手のお話をさせていただきました。実は小川GMは村上選手をドラフト1位で指名した時の監督でその時、流山でお話したのは、4年後に村上は塩見と共にヤクルトを引っ張る選手になると明言しており、まさにその通りになりました。高校時代の捕手から野手に転向させ、その時から小川GMの確かな目には感服しています。今回村上について話されたエピソードでは、小川GMに直接背番号55(松井選手と同じ)は重いから他の番号に変えてほしいと申し出があったそうですが、変えられる選手に迷惑がかかるから駄目と言っても何度も変更の申し出をしたそうです。最後には諦め、そして55号のホームランを打ち(重圧をはねのける)最終打席で日本人新記録の56号を打ちました。小川GM

年次支部協議会



門田隆将氏(左)と小川ヤクルトGM(右)

も村上はやはり強い星の下に生まれているすごい奴だと話していました。

門田隆将氏はノンフィクション作家として活躍しています。母子殺害事件を描いた「なぜ君は絶望と闘えたのか」、学習院大学の東都での優勝を書いた「神宮の軌跡」、打撃の神様と言われた高島宏(中大クラスメート)を描いた「甲子園の遺言」。NHKでドラマ化等野球界にも精通し、正力松太郎賞の選考委員(王、山本浩二等と)にもなっています。

今回の正力松太郎賞はオリックスの中嶋監督なのですが、自分は彼を推薦し村上には申し訳無かったと小川GMに謝る一幕も。

この会が広く集まり長く続いているのは偏に小川GMのお人柄でプロ野球という激務の中にはいるとは思えない人格者です。小川GMになぜなのかお聞きしたことがあります。強いて言えば祖父母、父母、と代々地域の保護司をしていて天皇皇后の園遊会に招待され最前列で両陛下と話された事を誇りに思っていますし、恵まれない青少年に寄り添っている姿をみて育ったと言っていました。そういう家庭環境が今の小川GMの人となりになっていると思いました。これからもこの会を続けて行きたいと思っています。

3年ぶり対面開催～ 総合政策学部によるOB向けプレゼン会

大学・学員交流部長 浜田 英明

毎年恒例の学生によるOB向けゼミプレゼン会を、本年2月4日・土曜日、多摩キャンパスにて3年ぶりに対面で開催した。

今回は、中大が新設学部開設後30年となる総合政策学部の学生により実現となった。毎回OBの経験に基づいたアドバイスに先生・学生から好評をいただいております。プレゼン終了後の交流懇親会も盛会裏に終了。

今回は中村准教授、実積教授にご協力をいただき、4チームのゼミ学生から①多摩地域におけるゴミの排出量削減策の有効性②首長の性別要因が財政支出に及ぼす影響③一般利用型CBDCは民間決済サービスの橋渡し役となりうるか～Suicaの事例をもとに～④Spotify APIを用いた楽曲の統計的分析等のテーマで情報収集、詳細なデータ分析による発表がなされ、OBとの質疑応答も活発に行われた。

ただ今回は開催場所としては初めての多摩キャンパス。従来の都心・駿河台、後楽園キャンパスとは違って外部近隣にお店は無い。かつ、こ

の時期の多摩キャンパスは入試直前、かつ大学は春休みとあってプレゼン会終了後のOBと学生・先生との懇親がヒルトップ等での食事提供機能が停止しており困難な状況だった。プレゼン会前半終了後のトイレ休憩時に、参加6名全員の学生に問うた。

「後半終了後、ヒルトップで一緒に食事するつもりだったけど使用できないので、どうする？」学生からは「OBの先輩たちとお話したいです。食事よりもCスクエアでお話の機会がとれないでしょうか」との回答。これには驚き感動した。「プレゼン会は14時終了でおなか減ってるだろうから、OBが駅前のコンビニで弁当買ってくるから全員でCスクエアに行こうね」。

プレゼン会は11時から始まり14時に終了。その後先生2名・学生6名全員とOBがCスクエアに集結。OBと学生、OBと先生、歓談の輪となり語り合いが尽きない中、記念撮影が完了。名残惜しい中解散となる。

将来の学員となる現役中大生とアカデミックな場面を通じ懇親をはか

ることは、年次支部協議会として、当然ながら学員会として「草の根活動」と位置づけ、基盤活動として継続していく予定である。



学生・OB集合写真

お知らせのページ

学生・学員スポーツの活躍

- ▶ **拳法部** 全日本学生拳法選手権大会男子の部優勝
- ▶ **自動車部** 2022年度全日本学生運転競技選手権大会男子個人及び団体の優勝
- ▶ **大学自動車部「GTCollegeLeague」** eモータースポーツ大会学生日本一大会決勝3連覇(11チーム中)

野球部

今年新設された 鹿児島県での おいどんカップに出場

2月23日開幕の同大会にはNPB、社会人、大学、独立リーグの33チーム(予定)が出場し、3月12日まで県内4市の球場にて開催。大学チームは中大を始め、亜大・慶應・法政・立教・東大等が出場し、中大は2月25日法政、26日慶應を皮切りにENEOSやTOYOTA等と6試合を戦う予定。この時期に強豪社会人・大学チームとの対戦は中々ないので、4月1日開幕の東都春季リーグ戦に向けて良い調整が出来る。今年は昨年ドラフト指名の森下・北村選手に続き、西舘・大栄の両投手や中前主将等数人がドラフト候補に名前が上がっており、厳しいリーグ戦ではあるが、優勝を目指して頑張ってほしい。

学員会からのお知らせ

- ▶ **2023年全国支部長会議(予定)**
2023年5月20日(土) 午前
場所：駿河台キャンパス(予定)
- ▶ **2023年定時協議員会・定時学員総会(予定)**
2023年5月20日(土) 午後
場所：駿河台キャンパス(予定)

下記以外に
活躍した選手・部、
多数有

▶ 中央大学2022年度卒業式・大学院修士学位授与式(予定)

理系 2023年3月24日(金)予定 … 理工学部・国際情報学部・理工学研究科

場所：文京シビックセンター 大ホール

文系 2023年3月25日(土)予定 … 法・経済・商・文・総合政策・国際経営・大学院5研究科

場所：多摩キャンパス

▶ 中央大学2023年度入学式(予定)

2023年4月2日(土)予定 …… 全学部・全大学院(専門職大学院を除く)

場所：多摩キャンパス

学員会から

卒業生全員に卒業を記念して

**「卒業記念Mug Cup」を贈呈
(COACH)**

～学員間の絆の広がり、学員間の親睦の証～

祝ご卒業



新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

▶ スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。

▶ 会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成

▶ 趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実

▶ 同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る

▶ 講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局：03-6261-1615

《年次支部ニュース 第18号》 2023年3月10日 発行

発行者／中央大学学員会年次支部協議会
発行人／清野 強
編集／年次支部協議会広報部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-3 一ツ橋ビル4階
TEL 03-6261-1615
印刷所／(株)ディスカバリー